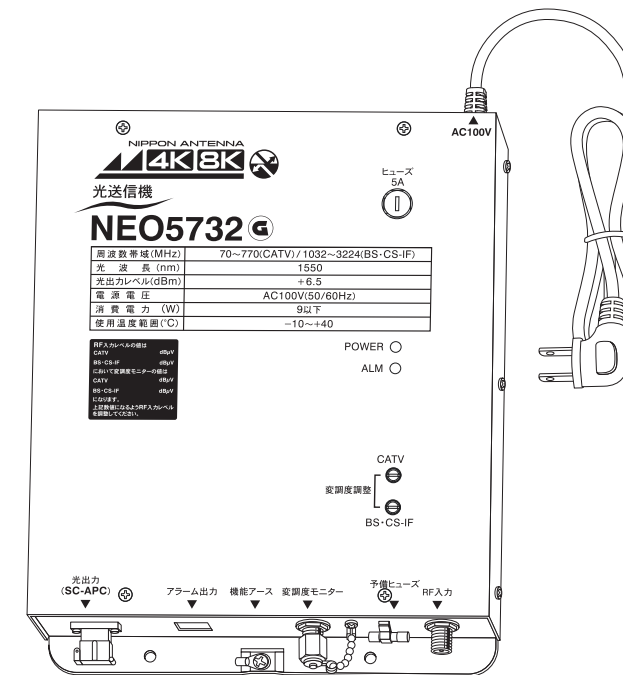


屋内用光送信機 Model NEO5732

このたびは、日本アンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。工事の際には施工説明書に従って施工をおこなってください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上の注意」をごらんください。



Model
NEO5732

取扱上の注意

取付工事は、専門の施工業者にご依頼ください。

メンテナンス

いつでも美しいテレビ映像をお楽しみいただくために、年に1回は専門業者に保守・点検をご依頼ください。

目次

表紙	説明の始まるページ
〔取扱説明書〕	
取扱上の注意	1
メンテナンス	1
安全上の注意	2
廃棄上の注意	2
特長	3
各部の名称および機能	3
性能規格	4
〔施工説明書〕	
設置場所・条件	5
光ファイバー、光コネクタの取扱い	5
同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法	6
機能アースのとり方	6
操作方法	7
収納箱への設置	7
取付方法	7

安全上の注意

絵表示について

この「安全上の注意」、「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになるかたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

	危険	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
	警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
絵表示の例		
		△記号は注意(注意・警告・危険を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は警告または注意)が描かれています。
		⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
		●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。)が描かれています。

危険

●光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。

警告

●ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

●表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。また、同軸ケーブル重畳方式にて動作可能な機器は、表示された重畳電圧を供給してください。その際は電源プラグをコンセントから抜いてご使用ください。

●本器に水が入ったり、本器の内部がぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり(熱器具に近づけたり)引っぱったりしないでください。電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのままご使用になると火災・感電の原因となります。

注意

●本器の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。また、本器が変形し、火災・感電の原因となることがあります。

●直射日光の当たる所、温室やサンルームなどの温度や湿度の高いところに置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

廃棄上の注意

本器のすべて、または部品を廃棄する場合には、自治体の定めた条例にしたがって処理してください。

操作方法

■操作は以下の手順でおこなってください。

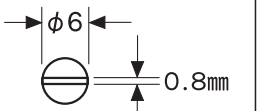
- ①標準性能表に記載されている波数に基づいて、適正なRF信号レベルをRF入力端子に入力してください。
- ②標準性能表に記載されている波数に基づいて、変調度モニター端子で、RFレベルを見ながら、適切なRF入力レベルとなるように前段のブースタなどで調整してください。必要に応じて、変調度ボリュームにて調整してください。本体に表示されている変調度モニターレベルは、工場出荷時に70～770MHz帯は、74波時(変調度2.2%)、1032～3224MHz 50波時(変調度2.2%)に適したRF入力レベルが記載されています。
- ③光出力端子に光パワーメータを接続し、規定の光出力レベルであることをご確認ください。
- ④光出力端子に光伝送路の光コネクタ(SC-APC)を接続してください。

ポイント 光コネクタを接続する際は、コネクタ端面を専用クリーナー、またはアルコールでよく清掃してから接続してください。

レベル調整時の注意

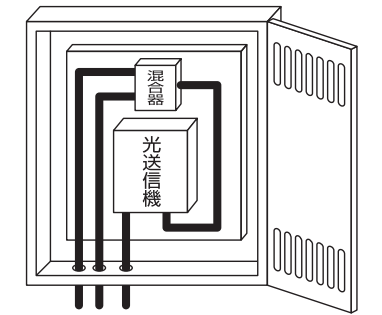
注意 利得調整などのボリュームのつまみは、径φ6mm以下のマイナスドライバーあるいは、調整用ドライバーを使用し、軽く回る範囲内で回してください。無理に回したり、押しつけると機器の故障の原因となります。

●ボリュームの寸法



収納箱への設置

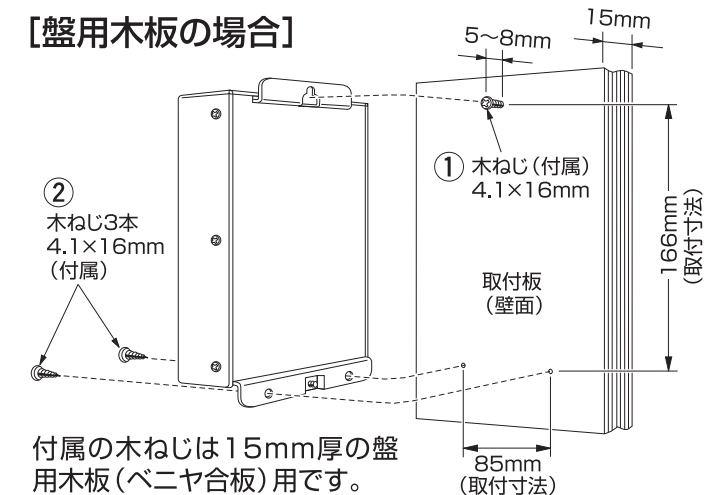
●収納箱に入れて使用する場合は、上下に防虫網付きの換気孔などのある収納箱を使用し、温度管理に十分注意してください。また、光送信機は収納箱の最上部を避け、換気孔より下側の位置に設置してください。



取付方法

- ①付属の木ねじをねじ頭部分が少し浮くように木板に取付け、機器を引っ掛けてから本体上部を固定してください。
- ②上部を止めた後、本体下部をガタツキがないよう、ねじ頭と本体の間に隙間を作らず、空回りしないように注意してしっかりと固定してください。

【盤用木板の場合】



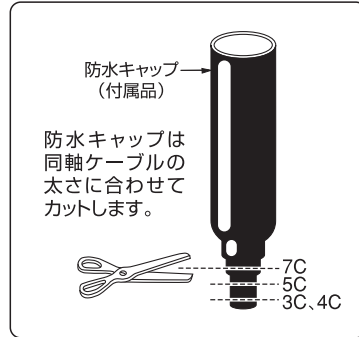
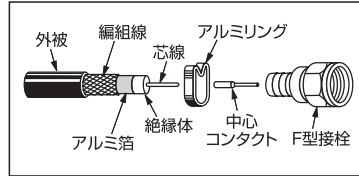
付属の木ねじは15mm厚の盤用木板(ベニヤ合板)用です。他の材質面へ取付ける場合は、適切なねじをご使用ください。

注意 本器は図のように必ず縦方向に取付けてください。指定外の取付けでは十分な放熱がおこなわれず、機器の故障の原因となります。

同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法 (別売品)

◆用意するもの
カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

各部の名称



防水キャップは同軸ケーブルの太さに合わせてカットします。

7C
5C
3C、4C

●防水キャップは先に同軸ケーブルに通してください。

① カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。(深さ1mm程度)

② 外被をむき、アルミリングを通しておきます。

③ 外被から2mm程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。

ポイント

- 絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線が編組線とアルミ箔に接触していないかをご確認ください。
- 芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合には、きれいにとってください。
- 同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。

●F型接栓締付トルク 2.0N・m (約20kgf・cm)

④ 編組線をめくり返します。

⑤ 編組線から2mmはなしてアルミ箔、絶縁体を切り、抜きとります。

⑥ 芯線を4~4.5mmにカットし、中心コンタクトを芯線に根元まで挿入して専用圧着工具な中心コンタクトが抜けないうかします。

⑦ F型接栓をアルミ箔と編組線の上に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。

注意 加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

機能アースの接続

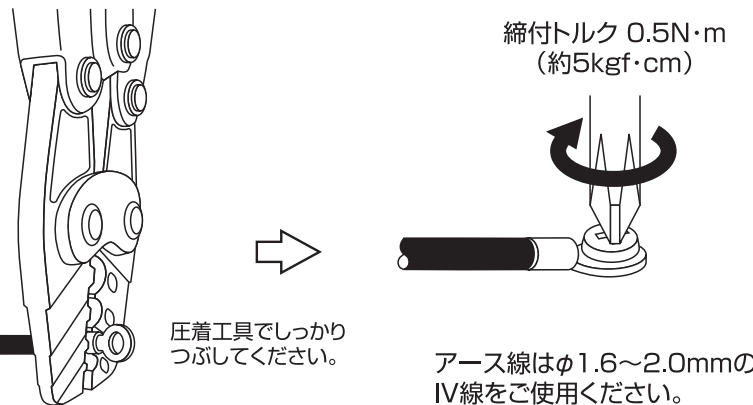
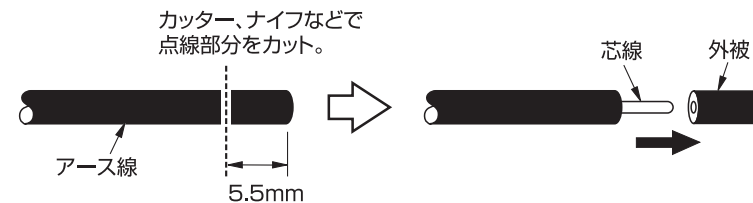


注意

アース接続は必ずおこなってください。接地がおこなわれないと機器の故障の原因となります。(接地抵抗 100Ω以下：D種接地工事)

機能アースの接続

- ① アース線先端の外被をはがしてください。
- ② アース端子にアース線を通して、圧着工具でかしめてください。
- ③ アース端子をシャーシの所定の位置にねじ止めしてください。



アース線はφ1.6~2.0mmのIV線をご使用ください。

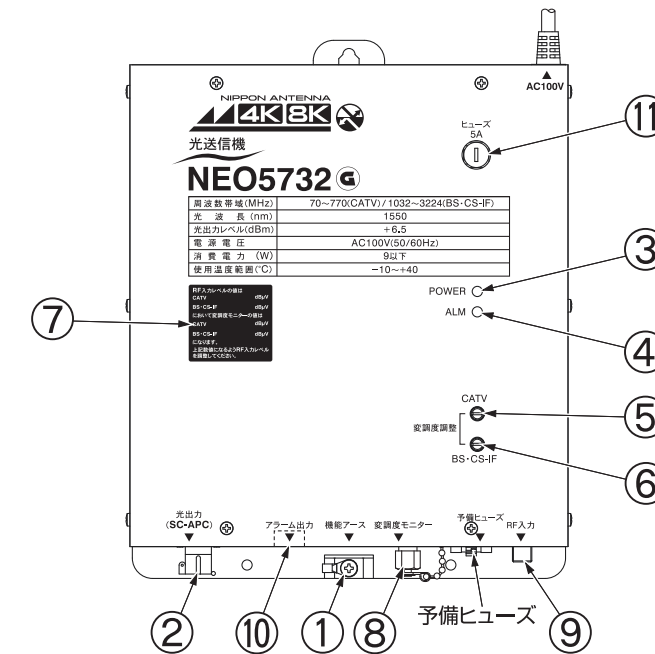
注意 アース接続は必ずおこなってください。接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障などの原因になることがあります。(接地抵抗 100Ω以下：D種接地工事)

特長

1. 本器は、高層ビルなどの共聴システムや電波障害対策などでご使用いただける光伝送機器です。
2. レーザーダイオードを使用しておりますので、安定した光出力が得られます。
3. 伝送帯域は、70~770MHz、1032~3224MHzと広帯域での伝送が可能です。
4. 1550帯の光波長を使用していますので、各種光増幅器や光カプラーを使用することにより、多彩なシステム設計が可能です。
5. 本器は、モニター端子(変調度モニター)を備えておりますので、保守、管理に容易におこなえます。
6. 接点出力機能を搭載していますので、監視装置と組み合わせることにより、遠隔監視が容易におこなえます。

各部の名称および機能

●NEO5732



① 機能アース端子	アース線は、φ1.6~2.0mmの被覆銅線(IV線)で、完全に接地してください。
ポイント	接地が不十分ですと避雷回路が働かず、機器や施設の故障などの原因になることがあります。
② 光出力端子(シャッター付)	+6.5dBmの光が出力されます。
注意	使用するコネクタは、SC型、APC研磨のものをご使用ください。
③ 電源ランプ(POWER)	電源を入れるとパイロットランプが点灯します。
④ アラームランプ(ALM)	光出力レベルが+3dBm以下になった時、点灯します。
⑤ CATV変調度調整	CATV帯域の入力レベルを0~-6dB調整できます。
⑥ BS・CS-IF変調度調整	BS・CS-IF帯域の入力レベルを0~-6dB調整できます。
ポイント	ポイント 変調度調整ボリュームは工場出荷時にCATV帯 74波、BS・CS-IF 50波において、各帯域ともにRF入力レベル75dBμV時で当社標準の変調度になるように調整してあります。
⑦ 変調度モニター指示値	変調度モニター端子⑧で合わせるレベルが記載してあります。
⑧ 変調度モニター端子	変調度モニター指示値⑦となるように、⑤⑥の各帯域の変調度調整ボリュームを使用して、RF入力レベルを調整してください。
⑨ RF入力端子	標準性能表に基づいて、波数に適したRF入力信号を入力します。
⑩ 接点出力端子	光出力レベル+3dBm以下および電源電圧断の時、状態変化します。接続条件は、無電圧接点出力(DC30V 30mA MAX)において、正常時は、ショートモード、異常時はオープンモードになります。コネクタは、RJ45を使用し、1番ピンが出力端子、2番ピンが、共通端子(COM)になっています。
⑪ ヒューズ(定格5A)	ヒューズが溶断した場合は、原因を取り除いてから、予備ヒューズと交換してください。
注意	必ず指定されたヒューズ(タイムラグヒューズ)をご使用ください。機器故障の原因となります。

性能規格

●NEO5732

項目		性能		備考	
周波数帯域	(MHz)	70~770	1032~3224		
伝送波数		74	50		
光特性	光出力レベル	+6.5±0.5			
	光波長	1540~1560			
	RIN	-150以下			
	光出力コネクタ	SC-APC			
電気特性	RF入力レベル	(dBμV)	75	75	
	帯域内周波数特性	(dB)	4以内	6以内	※1
	入力インピーダンス	(Ω)	75		C15型F型接座
	入力VSWR		2以下	2.5以下	
	変調度モニター	(dB)	指示値	指示値	
	CSO	(dB)	-48以下	—	※1
	CTB	(dB)	-50以下	—	※1
	光出力ALM LED		光出力レベル+3dBm以下で点灯		LED赤
	アラーム出力	接続形式	無電圧接点出力 (DC30V 30mA max) 正常時：ショート 異常時、電源断時：オープン		RJ-45
		動作条件	光出力レベル+3dBm以下および電源電圧断		
	不要放射	(dBμV/m)	34以下		3m法による
	電源電圧	(V)	AC100±10 (50/60Hz)		
	消費電力	(W)	9以下		
	耐雷性	(kV)	±25 (1.2/50μs)		ACライン間、RF入力端子
使用温度範囲	(℃)	-10~+40		本体周囲温度	
外形寸法	(mm)	215 (W) × 264 (H) × 49.5 (D)		突起物含まず	
質量	(kg)	約2.0			

※1 弊社光受信端末 (NRT732) との対向性能
 ●最大伝送損失 14.5dB
 ●使用光ファイバー
 シングルモード光ファイバー
 ●弊社測定系による

◎上記仕様での伝送距離は1kmです。
 仕様以外のチャンネルプランで使用する場合は、都度ご相談ください。

施工説明書

設置場所・条件

- 水中や雨水のかかる場所、高温 (40℃以上) の場所、有害ガスなどの発生する場所はさけてください。
- 光送信機は発熱しますので、熱のこもる場所はさけ、通風のある場所に設置してください。
- 電気配線、電気工作物の近くや、強い電磁波を受ける場所をさけてください。
- 放熱のため、同軸ケーブルの引き回しにより換気孔を塞がないよう、ゆとりある収納箱に設置してください。
- メンテナンスに容易な場所を選定してください。

光ファイバー、光コネクタの取扱い

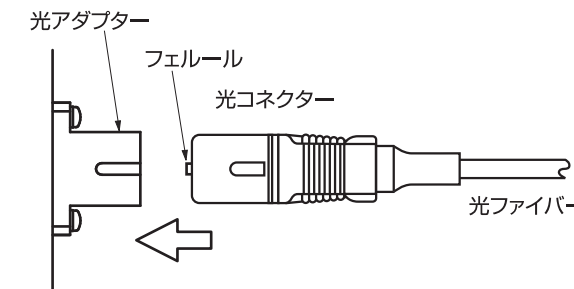
光ファイバー、光コネクタを取扱う場合は、専門の施工業者がおこない、以下に記載する内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。断線・損傷・特性劣化の原因となります。

光ファイバー

- 光ファイバーのビームは絶対にのぞき込まないでください。
- 取扱う光ファイバーの許容曲げ半径をご確認ください。
- 光ファイバーによじりなどのストレスを極力かけないようにしてください。
- 光ファイバーを強く引っ張らないでください。
- 光ファイバーの余長収納時、フタなどに挟まらないように細心の注意をはらって配線してください。

光コネクタ

- 光コネクタは接続毎に、必ずフェルルル端面を光コネクタ専用クリーナー、またはキムワイブなどにアルコールを浸して、きれいにクリーニングしてから接続してください。
- 光コネクタはホコリや汚れに非常に弱いので、汚れた手で取扱わないでください。特にフェルルル部分には絶対に触らないでください。
- 光コネクタの保護キャップは、接続時以外ははずさないようにしてください。汚れの原因となります。
- 指定された光コネクタの種類、研磨方法以外の光コネクタは使用しないでください。
- 光コネクタを機器に接続する際は、プラグの位置決め用の爪を、光アダプターの溝に合わせてまっすぐに挿入してください。絶対に斜めには挿入しないでください。光コネクタ、光アダプターの破損の原因となります。
- 光アダプター内にマッシングオイルなどのグリスがはいらないようにしてください。本機器にはマッシングオイルなどの使用を特に必要としません。
- 光コネクタを高所から落下させたり、硬い物にぶつけたりしないでください。



⚠ 危険 光ファイバーには不可視レーザー光が放射されています。目に障害を与える危険性がありますので、絶対に光ファイバーのビームをのぞき込まないでください。

⚠ 注意 光ファイバーが破損した時は、破片などに手を触れないでください。破片でけがをする恐れがあります。